


メディカル英語 No.3

医学英語の症例報告を読む

—— Case Report の構造で情報を抜く

 **今日のゴール**： Case Report（症例報告）の固定構造（CC・HPI・PMH・FH・ROS・PE・Labs・Assessment・Plan）を把握し、見慣れない英語でも「どこに何が書いてあるか」を即座に判断できるようになる。入試の英語読解問題でも使えるスキミング技術を習得する。


 この授業の問い

1. Case Report は何のために書かれるのか？ Abstract とどう違うのか？
2. 「CC → HPI → Assessment → Plan」の流れを、医師の思考プロセスと対応させると？
3. 入試の英語読解で「情報を速く抜く」ためにどの部分から読むべきか？

※ 授業後にもう一度この問いを見て、答えを書いてみよう。

 Case Report とは何か

症例報告（Case Report）は、稀な疾患・予期せぬ治療反応・新たな病態の発見など、**1～数名の患者の事例を詳細に記述した医学文書**。新しい仮説の出発点となることが多い（エビデンスピラミッドの最下層だが、発見の入口として重要）。

 **No.1（Abstract読み）との違い**： Abstract は論文全体の要約（構造化・非構造化）。Case Report は臨床現場のストーリーをそのまま記述する文書形式。Abstract より詳細で、患者の発言・症状の経過・検査値の推移が時系列で記録される。

採点者の視点

採点者はここを見ている —— 症例報告・Case Report構造の問題で合格答案はこういう「構造」をしている

① なぜ同じ答えでも評価が違うのか

清光学院の講師陣は、これまでに皆さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何千枚も採点し、合格・不合格の判定を下してきました。その経験から言えることが一つあります。

「正しい答えを出していても、なぜそう考えたのかが見えない答案は、採点者の印象に残らない。」

症例報告・Case Report構造の問題では、*症例報告の定型構造の根拠*の理解が答案の質を大きく左右します。

② 症例報告・Case Report構造で採点者が見ているポイント

「Chief complaint→HPI→PE→Assessmentの流れに沿って情報を整理した」と構造を示した答案が採点者に「医学文書を理解している」と映る

 この授業の使い方

各問題のワンポイントには「採点者がどこを評価するか」の視点が含まれています。答えを出すだけでなく、根拠を一文添える習慣を意識しながら取り組んでください。

③ 総合型選抜・口頭試問でも同じ構造が問われる

採点者（大学教員）が口頭試問で確認したいのは「答えが出るか」ではなく「思考の構造を説明できるか」です。この授業で習得する「上から俯瞰する」視点は、あらゆる試験形式に通用します。

続きは講義でご覧いただけます

この教材には、採点者の視点・核心的な解法・入試問題・演習・まとめがさらに収録されています。

大学教授陣が設計した「普通の授業では出会えない接続点」を体験できる完全版は講義でご提供いたします。

清光学院 AP SEIKO 理系講座 © 清光教育総合研究所